

2025年「脱炭素」のリアルチャンス

目次



PHP
Business Shinsho

2025年「脱炭素」 のリアルチャンス

すべての業界を襲う大変化に乗り遅れるな!

Kenji Eda

江田 健二

PHPビジネス新書

脱炭素という新しい風

3

- なぜ、こんなにも議論が錯綜するのか？ 3
- 脱炭素は「カナヅチ」や「のこぎり」 9
- 自分の都合でルールを変えていくのは、あたりまえ
企業にとって、今必要なのは2つの「し〇〇〇さ」「し〇〇〇さ」 13
- この本で伝えられること、伝えられないこと 15

第1章 ◆ 風を感じる

ブームとトレンドを見極めろ！

32

カーボンオフセットバブルの終焉

32

- 脱炭素はブームかトレンドか 34
- トレンドは一直線には成長しない！ 36
- ガラケーの二の舞にならないように 38

世界のお金の流れをつかめ！

41

- 「いつか余裕ができてから」という固定観念 41
- 世界のお金はどこに向かっているのか？ 43
- リスクが増えれば増えるほど減らしたいという焦りが働く
リスクは1つじゃない。企業に降りかかる様々なリスク 45
- 予測不能が生み出す負の連鎖 47
- 財務情報を疑え！「見えないものを見たい」という欲望 49
- 日本語にしづらい「イニシアティブ」について 50
- 聞きなれない3つの言葉 55
- これからの企業はIQだけでは生き残れない！ 61

脱炭素と世界の富豪たち

64

世界の富豪は何に投資しているのか？ 64

数兆円のお金が飛び交う、知られざる実態 65

やはりバブルが発生？ 世界が「脱炭素社会」になる値段は？ 69

脱炭素と私たちの大切なお金

73

対岸の火事ではすまされない不都合な真実 73

気候の悪化が予想外の出費に 74

財政も限界寸前 77

進むも地獄、退くも地獄？ 78

お金が減るだけじゃない 命への危険性も 79

第2章 ◆ 風の方角は？

日本にとって向かい風？

84

ものづくり大国日本に大打撃 84

急激な変化は「とどめの一撃」になってしまおう？ 86

ハシゴをはずされた苦い経験 二度あることは三度ある？ 87

YouTuber世代を感じる「国益」という言葉への違和感 89

日本の屋台骨である自動車産業はどうなる？

93

成長著しいモビリティ産業 93

ナンバー1企業からの苦言 94

なぜ、2030年代に禁止する国が多いのか？ 95

ハイブリッド車はいつから悪役になったのか？ 97

第5章 ◆ 風に乗り、羽ばたく

脱炭素時代の企業経営

196

- 社長、「手柄をあきらめる」覚悟はお持ちですか？ 196
- 経営者は、「あるべき姿(To Be)」を語ってはいけない 198
- 脱炭素モデルと脱炭素戦略の2つの違いを意識する 201
- なぜ、「TODORIST」では失敗してしまうのか？ 204
- ビッグデータ、AI、IoTと脱炭素の関係性 208
- 自社の脱炭素推進で一石三鳥、四鳥を狙え 212

社員を巻き込む秘訣

215

- 第一関門は意外なところにある 215
- 社員が動かないのには理由がある 217
- 半沢直樹を探してはいけない 218
- 脱炭素推進役には、「答え合わせ」の習慣がある人を 220

ステークホルダーを巻き込む秘訣

223

- CO₂の削減を顧客との「共通言語」に 223
- 「お客様は神様」を疑え！ 225
- 下請けに付度させていませんか？ 227
- 脱炭素に流れ込んでいるマネーを活用する 229
- 時には「嫌われる勇氣」も必要 231

いつ、どこに、どれだけ、どれくらい？

146

脱炭素が炙り出す国家間の対立

147

やはり世界が一致団結するのは「無理ゲー」か？

150

私たちが2100年をリアルに想像できない根本的原因

152

対立も対話の1つ

155

第4章 ◆ 風に乗る

向かい風を追い風に変える思考法、行動法

160

1. 意思をもつビジネスチャンスとしてとらえる

160

2. 情報を集める「新たな知」を吸収すること

163

3. 妄想するもし○○だったら……。妄想を止めるな

164

4. 決断する 決断が後手後手になってしまう根本的な理由

166

5. 行動する「100点を取らなければいけない」を疑え

167

日本にとっての勝ち筋は？

172

行き先は変えずに、行き方を考える

172

本当に大事なのは3%ではない

174

日本が世界に貢献できる最大のチャンス

176

全部を狙ってはいけない

178

誰でも覚えられる「物語」が必要

180

今こそ！産官学連携を！

182

ますます重要になる政府の方針

182

東京大学の新たな試み

186

「こんなことができれば世界が変わるよね」が生まれている

189

第5章 ◆ 風に乗り、羽ばたく

脱炭素時代の企業経営

196

- 社長、「手柄をあきらめる」覚悟はお持ちですか？ 196
- 経営者は、「あるべき姿(To Be)」を語ってはいけない 198
- 脱炭素モデルと脱炭素戦略の2つの違いを意識する 201
- なぜ、「TODORIST」では失敗してしまうのか？ 204
- ビッグデータ、AI、IoTと脱炭素の関係性 208
- 自社の脱炭素推進で一石三鳥、四鳥を狙え 212

社員を巻き込む秘訣

215

- 第一関門は意外なところにある 215
- 社員が動かないのには理由がある 217
- 半沢直樹を探してはいけない 218
- 脱炭素推進役には、「答え合わせ」の習慣がある人を 220

ステークホルダーを巻き込む秘訣

223

- CO₂の削減を顧客との「共通言語」に 223
- 「お客様は神様」を疑え！ 225
- 下請けに付度させていませんか？ 227
- 脱炭素に流れ込んでいるマネーを活用する 229
- 時には「嫌われる勇氣」も必要 231